
ソセゴンボール

生時(レジェンド)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ソセゴンボール

【Nコード】
N1026H

【作者名】
レジエント
生時

【あらすじ】
僕の好きな「ドラゴンボール」のパロディ(?)です。ソセゴンとは僕が使用している痛み止めの名前です。

第1章 生時と美奈子（前書き）

この物語は実際の出来事ではありません。また「ドラゴンボール」とは一切関係ありません。

第1章 生時と美奈子

伝説である。

7つの玉を集めて1万円払うと、どんな願いも叶うとか叶わないとか……

という不思議なボールがあると古より云い伝えられてきた。

その名はソセゴンボールという。

ある山の中……

ここにクローン病という病気を抱え、馬鹿なことをしすぎて親から勘当され、ホームレスとなった男がいた。
名は生時という。

生時が川で洗濯をしていると、一人の女の子が流れてきた……とい
うより溺れていた。

生時

「お、女だ！しかもかわいい！」

生時は御礼を期待し、女を助けた。

女

「あ、ありがとう」

生時

「いやいや（お礼のキス）」

しかし女はお礼を言うだけで、キスなどしてはくれなかった。

女は時計のようなもので、何かを調べていた。

女

「間違いない。この辺りだわ」

生時

「何か探しモノですか？」

女

「知りたい？まあ、あなたには助けてもらったから教えてあげる」

女はソセゴンボールのことを説明した。

女

「これがそのボール。中にミミズのような字で数字が書かれているでしょ。私は二字玉と三字玉を見つけたの。この辺に一つあるはずなんだけど、あなた見たことない？」

生時

「あゝ、それなら僕の小屋にありますよ」

女

「ホント！」

生時は女をダンボールで作った小屋に案内した。

女

「ここが、あなたの家！？」

生時

「まあ、実はかくしかじかで……」

生時はボールを捜しながら、女に自分の人生を語始めた。

女

「ま、まあ、アンタが悪いんでしょ」

生時

「あつた！これですよね？」

女

「ボールの中にミミズのような字で四と書かれている……間違いないわ！ねえ、これ私に譲ってくれない？」

生時

「で、でもそれは親父のかた……」

女

「お父さんの形見なんだ」

生時

「イヤ、親父は生きてるといったじゃないですか。それは親父の肩を叩いてあげるのにちょうどいいかなと思って、その辺に落ちていたのを拾ったんです……僕は肩叩きをしてあげて、許してもらうんだ！」

女

「あつ、そう（この人、肩たたきで許してもらうつもりなんだ）」

生時

「だから、あげません。」

女

「しょうがないな、じゃパンツ見せてあげるからどう？」

生時

「そ、そんなものより、おねーさんのおっぱいつつかせて」

女

「（こ、この人、主人公より、どこかのエロ仙人と同じじゃない）い、いいわ！ただし、あなたもボールを捜すのを手伝ってくれたらね」

生時

「やったー！あつ、申し送れましたが、僕、生時といいます。生ちゃん読んでね」

女

「はいはい（変な人を仲間にしてしまった）私は美奈子よ。よろしくね」

生時

「はい！ところでボールを集めて何をお願いするのですか？」

美奈子

「知りたい？しょうがない！教えてあげよう！私の願いは素敵な恋人をもらう事！」

生時

「なぐんだ、ならここにいるじゃないですか！」

美奈子

「あ、あなたはちよつと……」

こうして生時と美奈子の冒険の旅が始まった。

第1章 生時と美奈子（後書き）

次回は亀。人のような人が登場予定！

第2章 ハゲ仙人

二人の旅が始まってから、半日たった……

美奈子

「もう夜か。今日はここで休みましょう」

生時

「えっ！ここで！ゴ、ゴムあつたかな」

美奈子

「……へ、変なことしたら殺すわよ！」

そう言つて彼女は、不思議な袋を出し、そこから

美奈子

「キャンピング。プセル」

と、ドラ。もんのような言い方で、家を出した。

生時

「す、すげ、その袋どうしたんですか？」

美奈子

「旅をしている時に拾ったのよ！リーダーもここから出したの」といつて中に入っていた。

そして次の日……

美奈子はお出かけ前の準備をしているので、生時はその間に外で朝から一人運動をしようとしていた。

その時！

大きな亀が現れた！

生時

「な、何見ているんだ！デバガメか？」

亀

「実は私、亀なんです！」

生時

「か、亀がしゃべった！」

外で生時が騒いでいたので、美奈子も外に出てきた。

美奈子

「何この亀？」

亀

「実はご主人様に散歩に連れてきてもらったのですが、はぐれてしまい、もう100年近くさ迷っています」

美奈子

「100年！も、もう飼い主さんも亡くなっているわよ」

亀

「ああ、海が分かれば帰れるのに」

生時

「海なら、すぐ近くだ！案内してやる」

生時と美奈子は亀を海のところまで案内した。

亀は二人に少し待っててくださいといい海の中へ消えた」

しばらくすると、ハゲたじーさんを連れてきた。

そう、このジーさんこそが亀の飼い主である。

ジーさん

「どうも、ワシの名は、ハゲ仙人！大事な亀を見つけてくれてありがとう（ホントは100年も経っているから忘れていたけど）」

美奈子

「ハゲ仙人……」

ハゲ仙人

「お礼に素敵なものをあげよう！来い！栗キントン！」

すると空から栗色の雲がやってきた。

ハゲ仙人

「これをあげよう」

生時

「わーい！」

生時は喜んで雲に乗った。

ハゲ仙人

「こ、これは驚いた！この雲はかなりの馬鹿じゃないと乗れないの

に」

美奈子

「じゃ、じゃあ私は無理ね」

ハゲ仙人

「お前さんにはこの綺麗な玉をあげよう」

美奈子

「こ、これ、ソセゴンボール！」

ハゲ仙人

「ソセゴンボール？なんじゃそれは？たまたまゲートボールの玉代わりに玄さんから貰った玉だが」

美奈子はお礼にボールの秘密を教えてあげた。

ハゲ

「そうじゃったのか……でもワシには欲がない。これはお前さんにあげるよ」

美奈子

「ホントですか！（どこかのエロ仙人とは違うわ）」

だがその代わり、主人公の生時がエッチだけど……

それは置いといて、二人は五字玉を手に入れた。

これであと三つとなった。

第2章 ハゲ仙人（後書き）

美奈子が持っているんはドラ。もんの四次元ポケットではなく、違う誰かが落とした四次元袋である。「タケ。プター」や「どこでも。ア」などはないようです。

押忍！オラ生時！

次回は嵐を呼ぶ妖怪園児が登場！

絶対読んでくださいね！

第3章 嵐を呼ぶ妖怪園児

二人は残りのボールを捜し、旅を続けていた。

ある村……

美奈子

「変ね、誰もいないのかしら」

生時

「（だ、誰もいない！お、犯すなら今しかない）美奈子さん、あそこの家で休みましょう」

美奈子

「ちょっと、勝手に入ったらダメよ」

生時は一応誰がいるか確認するため、ドアをノックした。
コンコン！

生時

「誰かいますか？あれ、開いている」

生時は中に入っていた。

美奈子

「誰もいないのかしら」

生時

「（今がチャンス！）」

だが、その時！

村人A

「ウーノスケ様、どうかこの娘だけにご勘弁を」

生時

「ウーノスケ？誰それ？」

村人A

「な、なんじゃ、ウーノスケじゃないのか」

美奈子

「何かあつたのですか？」

村人A

「実は去年から、ウーノスケという妖怪に女の子、しかも18歳以上の子を自分の女にしようと連れて行かれているのです」

村人B

「逆らえば、この街を破壊すると脅してきました」

美奈子

「そうですか……分かりました。私たちがその妖怪を退治します」

村人A

「ホントですか！」

生時

「ま、まさか僕も……」

美奈子

「アンタが女装して、囿になって、油断したところでやっつけるのよ」

それから……

しばらくすると、ゴツツイ大男が現れた。

男

「へへ、お嬢さん、今日こそ俺の女になってもらうぜ!」

生時

「(や、やばい……こんなヤツに勝てるわけがない)」

男

「ん? 貴様! 男の匂いがする! 女じゃないな!」

生時

「ば、ばれた……こうなったら、いつもの、ハッターで……」

生時は昔の自分を思い出し、まず相手にガンを付けて、声で脅した。

生時

「やるのかこら〜! 来いよ!」

すると男は怯え始めた。

生時

「(コイツ、弱いぞ!)」

生時は、相手が弱ければ手加減しない！

男

「ご、ごめんなさい！実はウーノスケさんにチヨコビをやるから連れてきてと頼まれただけです。僕、体は大きくても臆病だし、頼まれると断れないタイプの人間です」

生時

「ウーノスケのところに案内しろや！」

男

「はい」

生時と美奈子、そして村人たちは、男の案内でウーノスケの自宅へ向かった。

中に入るとピチピチギヤルに囲まれながら、楽しそうにしている園児がいた。

村人C

「真由美、迎えに来たぞ！」

真由美

「あら、お父さん！ねえねえ、この子かわいいでしょ？最初はそこの大男の相手をするのかと思ったら、こんなかわいい子が相手だったのよ」

生時

「（子供はいいな、うらやましいぜ）」

ウーノスケは、美奈子のほうを見て、ナンパしてきた。

ウーノスケ

「おねーさん、ピーマン食べれる？納豆にはネギを入れる？」

美奈子

「よしよし、かわいい子ねー、いい子だから、皆をおうちに帰してあげてね」

ウーノスケ

「じゃあ、今度はおねーさんが、オラの相手してくれる」

美奈子

「僕のパパとママは？」

ウーノスケ

「オラ、人間と妖怪の間に生まれた子供だから、父ちゃんと母ちゃんに捨てられたぞ！」

美奈子

「かわいそうに……じゃあ、おねーさんと一緒にボール探しの冒険に出かけよう！」

ウーノスケ

「冒険！オラ行く！」

こうしてウーノスケも仲間となった。

第3章 嵐を呼ぶ妖怪園児（後書き）

ウーノスケはただの半妖怪で、ナンパ以外の能力はなく、変身は出来ないが、動物ゴツコ用の着ぐるみを着て、変装することが出来る。

押忍！オラ生時！

次回は

とんでもない盗賊二人組みが登場！

絶対読んでくださいね^^

第4章 砂漠の病人生時

新しく仲間になったウーノスケ（通称ウーちゃん）と旅を続けてから2ヶ月がたった。

3人は地獄のような砂漠を歩いていた。

そしてその近くでは、ここを通る者からお金など盗む、狸のような妖怪と、サングラスが似合う十代の少年の二人組みがいた。

プーえもん

「ノムチャ君、カモですよ！カモ！」

ノムチャ

「ふふふ、久しぶりに金めの物をいただくか！それよりプー、四次元袋は見つかったか？」

プーえもん

「ダメ！どこにも落ちていない……」

ノムチャ

「そうか……まあいい、よし行くぞ！」

プーえもん

「しかし、サブタイトルに僕らの名前出ていませんね」

ノムチャ

「作者はアホだな」

そして美奈子たちは……

美奈子

「熱い……」

生時

「美奈子さんは栗キントンに乗れないからな」

美奈子

「ちよつと休憩……」

生時

「へへ、寝たところを襲つてやる」

美奈子は静かに永遠の眠りについた……
彼女の肉体は滅んでも、彼女の心は行き続けるであろう
僕らが彼女を忘れないかぎり……

美奈子……享年16歳

「ご愛読ありがとうございました。」

美奈子

「ちよつと勝手に殺さないでよ！」

スイマセンでした（早く寝て、俺に犯される！）

ようやく美奈子が寝たので生時とウーチャンは彼女を犯そうとした。
その時！

ノムチャ

「お前ら、ここを通りたかった金めのものをよこせ！」

生時

「だ、誰だ！」

ノムチャ

「俺の名はノムチャ！またの名を砂漠のハイエナ！」

プーえもん

「こんにちわ！僕プーえもんです！」

生時

「君の二つ名は砂漠の青狸だな！」

プー

「狸じゃない！僕は天上界からノムチャ君を立派な盗賊にするためにやってきた！妖怪プーえもんだ！」

ウーちゃん

「わーい、青狸だ！」

プー

「お、お前は！妖怪幼稚園で先生のパンツを盗んで、それを僕のせいにして逃げた、ウーノスケ！」

ウーちゃん

「あつ、あれね、組長（園長）の男用のパンツだから君にあげたんだぞ」

プー

「ぼ、僕はあの後、くみ、じゃなくて園長先生に怒られたんだぞ！」

ウーちゃん

「悪い事はダメだぞ！」

プー

「悪いのは君のほうだ！」

ノムチャ

「プー、もういいだろう」

そう言つてサングラスを外すと……

生時

「ハハ、目が3になつてる！」

ノムチャ

「こ、小僧、笑つたな！」

といつても生時は30のオジサンである。

ノムチャ

「こうなつたら見せてやる！俺の猫ちゃんニャンニャン拳を」

その時だった！

寝ていた美奈子が騒ぎで起きたのだ！

ノムチャは彼女を見ると、急に動かなくなつた。

ノムチャ……君の熱い魂は僕らが受け継ぐから、安心して眠りにつ

いてくれ。

享年16歳

女を見て、ショック死である。

臨終の言葉が「猫ちゃんニヤンニヤン拳を」と、ダサイ技名を言ったのが最後の言葉である。

プー

「こら！ノムチャ君は死んでないぞ！ま、まずい……ノムチャくんは、お静ちゃんにふられてから、女性を見るとショックを思い出し、動けなくなるんだ」

それを知った生時……

相手が弱いと分かれば手加減しない男だ！

タバコに火をつけて威嚇し始めた。

生時

「こら！誰に喧嘩売ってんじゃ！俺はな、またの名を砂漠で肺がんなったらどうしようと呼ばれている男だぞ！」

プー

「な、長い名前ですね……ならタバコはやめたほうが……」

生時

「あつ！？てめゝは、お腹でも叩いてろ！しかも俺のじいちゃんはある有名な水戸光圀公……」

プー

「げげ！ご老公様のお孫さんですか」

生時

「の、ドラマが好きなじいちゃんだったんだぞ！」

プー

「なんじゃそりゃ……」

美奈子

「ちよつと、やめなさい！」

美奈子は袋で汗を拭いていた。

プー

「あゝ！それ僕の袋！」

美奈子

「これアンタの？でもアンタのものは私のもの！」

ウーちゃん

「へへゝん、後でオラが匂いを嗅ぐんだぞ！」

生時

「お、俺にも嗅がせてね」

プーえもんたちは盗賊なのに、逆に脅され、さらに四次元袋も返してもらえなかった。情けない盗賊である。

プー

「く、くそ、覚えている！行きますよ！ノムチャくん」

生時

「早く、ソセゴンボールを捜しに行きましょう!」

と、それを聞いていたプーえもんが、

「そうか……やつらソセゴンボールを探しているのか」と言い、エロ親父のようにいやらしく笑った。

プー

「げへげへ……僕はそんなキャラじゃないぞ!」

それからしばらくして……

プーたちはアジトに戻っていた。

ノムチャ

「そうか……やつらソセゴンボールを探しているのか」

プー

「しかも僕の四次元袋も持っていました」

ノムチャ

「よし!やつらの後を追ひ、全部揃ったところで俺の願いを叶えてもらおう」

プー

「何を願うんですか?まさか結婚とかじゃ……」

ノムチャ

「俺の願いは唯一つ!3みたいな目を少女マンガに出てきそうな目にしてもらう事だ!そうすればお静、いや、この世の女にモテまく

るぜ！」

そう言つて、ノムチャはサングラスをかけて、ホンダのスーパーフォアに乗った……気になって、ママチャリで彼らの後を追った。

そして……

ノムチャ

「おい、君たち！待ってくれ」

美奈子

「あら！いい男！」

生時

「あの人さっきの目が3の兄ちゃんですよ」

美奈子

「えっ！？」

生時

「あ！？なんかようか？」

弱いと思つた相手にはとことん、でかい態度を取る生時であつた。

プー

「僕の袋の中に軽自動車が入っているから、それに乗っていきなよ」

それを聞いて美奈子は、

美奈子

「軽自動車」

と、またもや、ドラ。もののような言い方で車を出した。

美奈子たちは軽自動車に乗って旅を続けた。

ノムチャ

「くく、あの車には発信機がついている。どこに行ったかすぐに分かる」

だが良く考えたら、ここは砂漠……

軽自動車じゃ走りにくいし、またママチャリでは漕ぎにくい……

結局、5人は歩いて、砂漠を越えたのであった。

第4章 砂漠の病人生時（後書き）

押忍！オラ生時！

いやゝ、今回から強敵人造人間が出てきましたねゝ（出てきてねゝよ）

次回はあの人が登場しますよ！

第5章 おいしいとこ持っていかれた

5人（ノムチャたちは気づかれないよう後を追ってきた）は砂漠を乗り越えて、ボールを捜す旅を続けていた。

美奈子

「ねー、また熱くなってきたわねー」

生時

「こ、この辺りは確か、フランスパン山だ！や、やばい、ここだけは避けて通ろう」

美奈子

「ダメよ。この辺りにボールの反応があるんだから」

フランスパンは僕はあまり食べません……じゃなくて、フランスパン山……

数年前、突然天から火の精が落ちてきて、それから炎に包まれた山である。

生時

「しかもなー、あそこの城の主は、格闘技の世界チャンピオン、ミスター・サタロウというおっかない格闘家がいるんだ！いくら俺がカッコよくても勝てません！」

カッコよさは関係ないし、あんたはカッコよくない！

美奈子

「アンタ、雲に乗って取ってきてよ」

生時

「あの……まだ死にたくないんですが……」

美奈子

「うまくいったら、一回くらいやらせてあげるわ」

生時

「なに！頑張って行ってきます」

生時は栗キントンを呼び、乗ろうとしたその時！

サタロウ

「お前たち、何してやがる！さてはお前たちも、私を倒して、名を上げようと考えている連中だな！」

美奈子

「と、とんでもないです！」

生時

「だからここは、やばいといったじゃないですか！」

サタロウ

「ん？おめー、その雲どうしたんだ？」

生時

「こ、これ、これ、で、ですか？こ、これはハゲ仙人という、ひ、人、人から、もら、もらいました。」

生時と美奈子は震えていたが、ウーちゃんはコアラの着ぐるみを着

て遊んでいた（熱くないのか！？）

サタロウ

「そうか……そのハゲ仙人という方は私の師匠で、悟天老師さまだ！」

生時

「そ、そうですか……」

サタロウ

「兄ちゃん！老師様のところへ行って、この火を消すように頼んできてくれ」

生時

「は、はい」

サタロウ

「そうそう、その用事を娘の生ビードルに頼んでしまったので、途中で見つけて一緒に行ってきてくれ」

そう言って、サタロウは娘の写真を出した。

ウーちゃん

「うおー！ピチピチのおねいさんだー！オラが行ってくるぞ！」

生時は恐怖で震えていたので、代わりに、ウーちゃんが行く事になった。

もちろん彼も雲に乗れるよ。

ウーちゃん

「じゃ、行つてらっしゃい」

美奈子

「いってきますでしょ！」

そして……

ウーちゃん

「彼女！ピーマン食べれる？」

生ビードル

「……？」

ウーちゃん

「オラは上だぞ！」

生ビードル

「あら、かわいい坊やだね」

ウーちゃんは生ビードルに父親から用事を頼まれたことを説明した。

生ビードル

「そう……それなら一緒に行こうか」

生ビードルはウーちゃんや生時好みのセクシー美女だ！年齢は二十歳！

だが、生ビードルは馬鹿じゃないので、雲に乗れません。

ウーちゃん

「ぼ、僕の背中に乗ってください!」

生ビ―デル

「いいの?それじゃ遠慮なく」

彼女の胸がウーちゃんの背中に……(うらやましいぞ!)

そして二人はハゲ仙人の元へ向かった。

第5章 おいしいとこ持っていかれた（後書き）

押忍！オラ生時！

ついに、フリータ君をやっけたぞ！（そんなの出ていないから）

次回は「未来から来た少年」（嘘です）

絶対読んでくださいね^^

第6章 えっ！？もう朝かよ……（前書き）

え、二日前から書き始めて、昨日の夜中はちよつと気分が優れなかったが、気づいたらもう6章まで書いてしまった。只今4：06です。

第6章 えっ！？もう朝かよ……

ドクター・ゲロゲロの野望も打ち砕くため……

あつ、いきなり間違えました。スイマセン……

フランスパン山の火を消してもらったために、ウーちゃんと生ビードルはハゲ仙人の元に向かっていた……が、ウーちゃんは場所も知らずに飛んでいた。

生ビードル

「ね、場所分かるの？」

ウーちゃん

「あれあれ、あそこだぞ！」

彼は広い海に浮かぶ小さな島を、迷子にならずに偶然たどり着いた。

ウーちゃん

「ほほーい、じいちゃんオラだぞ！」

ハゲ

「お、お前さん……誰じゃ！？」

気づいた方もいるかもしれませんが、この二人は今まで会っていないです。

今回、ここで始めて会ったのです。

ウーノスケはハゲ仙人に説明した。

ハゲ

「何々、フランダースの犬を消してくれじゃと！」

と、かなり間違えた説明ですが……

今度は生ビードルが詳しく説明した。

ハゲ

「そういうことが……いいじゃろう！ワシが行って消してやるわ」

ウーちゃん

「でも、じいちゃん、雲に乗れないぞ！オラの後ろは綺麗なおねいさんだけ！」

ハゲ

「安心しろ！ワシはハゲ仙人だぞ！」

そういうと彼は携帯を出し電話をした。

ハゲ

「もしもし、宇宙会社さん、あのう、また宇宙船を一台頼みたいんじゃないが……」

数秒後……

空から一台の宇宙船がやってきた。

ウーちゃん

「おお、オラも乗る」

ハゲ

「お前は雲があるじやろっ」

一瞬ウーノスケは脹れたが、生ビーデルの胸の感触を味わえることを思い出し雲に乗った。

だが、生ビーデルは宇宙船に乗ってしまった。

ウーノスケはまた脹れたが、火が消えたらパフパフしてあげるといわれ、天にも昇る気持ちだった（て、コイツも元々、天上界の妖怪である。あゝパフパフうらやましいなゝ）

宇宙船の運転手さん

「ハゲ仙人さん、今日はどこまで？」

ハゲ

「フランスパンの山まで！」

と言ってから数秒後にはたどり着いた。

サタロウ

「悟天老師様、お久しぶりです！」

ハゲ

「やれやれ、あんな火も消せないのか……」

サタロウ

「スイマセン！いつものトリックで消してください！」

ハゲ

「ばか者！あれはトリックなんかじゃないと、何度も言っているであろっ」

サタロウ

「ははっ」

美奈子

「ホントに消せれるのかしら」

サタロウ

「出るぞ！老師様のツルリン波が」

トリックなど使わず、体中の気を集中し、放つ、それがツルリン波である。

その様子をノムチャたちは隠れてみていた。

ハゲ

「ツルリン波っ！！！！」

ドドーン

と、ものすごい爆風で火は消えた。

だが、城もメチャクチャになってしまった。

生時たちは、廃墟の中からボールを搜した。

生時

「あつた！6字玉だ！」

美奈子

「やったわ！」

これで後二つである。

そしてちょうどいいタイミングで、ウーノスケが戻ってきた。

そして……

生ビードル

「約束どおり、パフパフしてあげるね」

ウーちゃん

「わーい」

ご自由に想像してください！

ウーちゃん

「おねーさん！僕が大人になったら、結婚してください！」

生ビードル

「うん！」

こ、これでいいのでしょうか……

主人公の僕は何をしているんだ！

生時

「ハゲ仙人さん、僕を弟子にしてください！僕のじっちゃんは、あの水戸光圀公のドラマが好きだった人です」

ハゲ

「相変わらずばかじゃのう！じゃが、旅が終わったら考えてもいいぞ！」

こうして、ボールも見つかり、残りのボールを捜したため、旅を続けた。

第6章 えっ！？もう朝かよ……（後書き）

次回は世界征服をたくらむ連中が登場！

ま、まさかピッコロ大魔王じゃ……

第7章 木曜行ったら金曜は休みだ

五人（ノムチャたちは気づかれないように追っている）は残りの玉を見つけるため、旅を続けた。

豪

「来た！あいつらだ！リーダーに連絡を」

命

「よし……礼クン様、怪しいやつらが城に向かっています。しかもどうやら、あのモノたちが残りのソセゴンボールを持っているようです」

命と豪は、世界征服を企んでいる礼クン大魔王の手下で、命は女性しかも16歳、豪はプロレスと酒が好きな二十歳の男性である。そして、三人揃って、奇体組！

豪は美奈子たちに向けて、威嚇のミサイルを発射！

ドーン

と音が鳴り響いた。

美奈子たちが驚いている時に、命がソセゴンボールの入った袋（四次元袋ではない）を持っていかれた。

美奈子

「ソセゴンボールを狙う悪いやつに取られた」

生時

「一つだけなら、僕の小屋から持ってきたボールなら、僕が持っています。」

美奈子

「そうか！これさえ持っていれば、全部そろえる事はできないわね！」

ノムチャ

「しょうがない！あいつらだけでは心配だ！俺も手伝うか」

美奈子

「レーダーに6つのボールの反応があるわ！そこに行きましょう」

ノムチャ

「あれあれ、偶然だね、君たちもこんなとこにいたんだ」

生時

「砂漠の肺がんだ！」

ノムチャ

「砂漠のハイエナだ！肺がんはお前が言っていたんだろうが」

ハイスクール城、ここが礼クンたちの城だ！

礼

「しょうがないやつらだ！数を確かめぬとは……まあ、やつらもボールを狙ってこの城に向かってきている」

美奈子たちは城の中へ入っていた。

しばらくすると「遊び部屋」と書かれた部屋があった。

美奈子

「ここが怪しいわね！でも中にどんな罠があるか分からないし」

だが、ウーノスケと生時は何も考えず中に入ってしまった。

仕方なく美奈子たちも中に入った。

もちろんただの部屋じゃない。

ドアが急に閉まり、彼らは閉じ込められたのだ！

部屋の中には確かにおもちゃなどが置いてある。遊び部屋だ。

そして部屋の真ん中にテレビがあった。

生時がスイッチを入れると、画面に礼クン大魔王が映った。
礼

「私は礼クン大魔王だ！お前たち残りのボールをよこせ！」

といい、部屋から、睡眠ガスが……

果たして5人はどうなるのか？

第7章 木曜行ったら金曜は休みだ（後書き）

ピラフ一味のようなキャラは「奇面組」の令と豪、メンバーではないが雲童命の3人（声優繋がりで）が奇体組の3人のモデルである。

次回はいよいよボールが7つ揃い、ある生物が登場！

えゝ、ちょっと喫茶店で一服してきますゝゝ

第8章 痛い時にはソセゴンだね

催眠ガスで4人は眠らされた……

だが生時は日頃から、眠剤を飲んでいるので効かなかった。

礼クン大魔王たちはガスマスクつけて、中に入っていった。

礼

「ほう、一人だけ効かなかったか！まあ、いいや、小僧おとなしくボールを渡せ！」

生時

「断る！」

礼

「豪！お前のプロレス技を見せてやれ！」

豪

「おう！」

指を鳴らし、服を脱ぐ豪……

生時は勝てないと思うと、逆らわない男だ！

生時

「これ、どうぞ！」

礼

「よし、これで全てが揃った」

彼らは残りのボールがしまつてある部屋へいた。

しばらくして、奇体組が外でボールを7つ並べた。

その頃、美奈子たちはようやく目覚めた。

生時

「美奈子さん！スイマセン！頑張つて戦つたのですが、相手が強くて、残りのボールを奪われました」

頬をなでながら、嘘を言う生時であつた。

美奈子

「そんな事より、どうやって、ここから出られるかしら」

ウーちゃん

「ドアの鍵が開いてるぞ！」

ノムチャ

「何！よし、早く外に出てやつらを阻止しなければ」

礼

「出でよ！ソセゴン！一万あげるから、我が願い叶えたまえ！」

すると空が暗く……と書きたいが、美奈子たちが寝ている間に外は夜になっていた。

だがボールが光ると、そこからセクシーギャルが現れた！

ソセゴン

「あら、一万だけなの？100万は出してもらいたいわね」

礼

「言い伝えはあてにならない、仕方ない、豪くん、急いで金庫から100万持つてきてくれ」

豪

「いいけど、ちゃんと給料払えよ！」

しばらくして……

豪は100万という大金を持ってきた。

だが、ちょうど美奈子たちも外に出てきた。

ずいぶん遅かったのは、広い城だから迷子になっていたからだ。

礼

「今頃来ても遅い！さあ、ソセゴン、我が願いは……」

とその時、生時が走りながら

生時

「ギャルのパンチ贈れ！」

と叫んだ。

ソセゴン

「あら、そんなのでいいの」

というと、彼女は生時のところに行き、

パチーン！

と、生時を殴った。

生時

「何でやねん……」

生時はパンティーと頼むつもりだったが、彼は間違えて、パンチと
いつてしまったため、ソセゴンというセクシーギャルに殴られたの
だ！

ソセゴン

「これで100万ももらえるなんて、今回は楽な仕事だったわ」
といい彼女はどこかに消え、ボールも石になって世界中に飛び散っ
た。

100万も払って、叶った願いがギャルに殴られることは……

さすがに礼クン大魔王は激怒した。

5人を再び、遊びの部屋に閉じ込めて、その間にどうやって処刑し
ようか考えた。

礼

「よし、明日の昼、女はくすぐりの刑にして、笑い死にして、ガキ
と狸とグラサンは脅かして、ショック死させて、最後に私の願いを
邪魔したオヤジ……コイツは楽には殺さないぞ！私の臭い靴下を嗅
がせて、じわじわと殺してやる」

果たして、5人は無事出ることが出来るだろうか……

第8章 痛い時にはソセゴンだね（後書き）

え、次回で一応終わろうかと思いますが、アクセス数が伸びていたら、考えます。

第9章 第一部終わりだぞ！

生時の活躍で、世界征服を阻止したが、5人は再び閉じ込められてしまった。

今度は鍵を掛けられたので、出るのは不可能である。

ノムチャ

「クソ！俺の願いが……」

美奈子

「ああ、私の願いが……」

二人同時につぶやいた後、二人は目と目があった。

ノムチャ

「（そういえば、この子といっても、もう動かなくなる事はない。しかもお静以上にかわいいし……）」

美奈子

「（わ、笑える。何あの3みみたいな目は……）」

生時

「ね、知ってる？満月の夜になると、大きな怪物が出るんだって」

生時は天上の防弾ガラスから見える満月を見ながら、そう呟いた。

ノムチャ

「そんなのくだらない噂だろう」

生時

「噂じゃないよ！僕のじいちゃん、水戸黄門好きなんだから」

水戸黄門とどう関係があるのだろうか……

ウーちゃん

「オラもじいちゃんに会ったことないが、怪物が出るって言うていたぞ！」

会ったこともないのに、どうやって会話したんだろうか……

ノムチャ

「そういえば、俺の亡くなった祖父も言っていたような気が……だから、満月は絶対に見てはいけないと言われたな〜けど、小便をしに外に出て満月を見た日に祖父は何故か死んでいたが……」

プーえもん

「そういえば、僕のおじいちゃんも、山で芝刈りに出かけて言ったな〜」

何の話をしているんだこの狸は……

生時

「綺麗な満月だな〜」

とその時

生時

「うつ！うつ！」

生時の様子がおかしい！ついでに頭もおかしい！

美奈子

「ちよっと、冗談はやめてよね！」

そして

プ

という音が部屋に響いた。

生時

「ごめん、ごめんガス溜めて、腸閉塞になったらいやだからさ」

プーえもん

「もう、臭いんだから……ん？」

プーえもんの近くにねずみが現れた！

プーえもん

「ギャー！ねずみだー！」

プーえもんは発狂した。

プー

「女！早く袋返せ！地球破壊爆弾でこの星ごとねず公を消し飛ばしてやる！」

美奈子

「ちよ、ちよっと大丈夫なの？」

ノムチャ

「フツ、アイツは満月の夜にねずみを見ると発狂してしまうのさ」

満月は関係なく、彼は普段でもねずみを見れば発狂する。

美奈子

「仕方ないわ！皆には内緒にしていたけど、私は昔、キューティー
ムーンと共に戦った愛の戦士、キューティーヴィーナスなのよ」

そう言つて彼女は変身……

変身中はすツ裸だ。

生時

「み、見えた！クソ携帯で写真取ればよかった」

美奈子

「さあ来い！狸の化け物！変身後の私の力を見せてやる！空○砲！」

ドカーン！

とプーえもんに当たり、プーえもんはドアまで吹っ飛んだ。

……てっ、変身後も、何も、ただ四次元袋から道具を出しただけじ
ゃん！

だが、おかげで、ドアは壊れた！

ありがとうプーえもん……

君という友を僕は僕は忘れない！

プーえもん、戦死……

享年1293歳……

――完――

美奈子

「勝手に終わらすな！」

美奈子は快感を覚えたのか、空。砲を発射しまくった……まるで悪魔が乗り移ったようだ……

その一発が今度は生時に命中……

生時、「小説家になろう」で活躍し、病氣と戦うネット作家……

この物語の主人公であり、作者でもある男が今……

享年30歳であった。

さらに、騒ぎでやってきた奇体組の3人にも当たり戦死……

だが、これが戦いなのである。

終劇

ノムチャ

「終わらすな！でも、これで二人だけになったね」

ウーちゃんがいるぞ！

美奈子

「ノムチャ……プツ！マジ笑えるよ！その3の目」

ノムチャ

「お静と同じことを言われた！」

美奈子

「生ちゃん、大丈夫？」

生時

「美奈子さん……お、俺、実は貴女のことを……」

美奈子

「なぐに？」

生時

「な、なんでもない……（こ、ここで言わなければ男じゃない……
言え生時……好きだと言っんだ！）」

彼は震えた手を強く握って、大きく息を吸った。

生時

「お、俺、頼りないけど、美奈子さんのことが好きでした……貴女に会ってから、徐々に貴女に憧れ始めました……好きになつてとは
言いません……ただ、嫌いにならないでください」

美奈子

「生ちゃん……私も生ちゃんのこと好きだよ」

そう言って、美奈子は生時に優しくキスをしようとした。

生時の唇まであと数センチ……

親父

「生時！」

生時の唇まであと数ミリ……そして……

親父

「起きろ！バイトに遅れるぞ！」

生時

「ん？お、おい！夢なのか？夢オチなのか作者！……て、作者は俺だった！」

だが、彼の唇には彼女の……美奈子の柔らかい唇感が残っていた。

生時は人差し指で唇を触り、

生時

「また、会えるよね」

と、呟いた……

彼が部屋を出た後、鏡には優しく笑う……礼クン大魔王が不気味に写っていた！

END

キャスト

生時……生時

美奈子……如月美奈子

以下省略

原作 生時

脚本 生時

武術指導 修羅生死

音楽 生時

主題歌

「愛の女神〜ヴィーナス〜」

作詞 生時

作曲 生時

歌 レジエンド

企画 生時

プロデューサー 生時

協力 小説家になろう

監督 生時

第9章 第一部終わりだぞ！（後書き）

アクセス数が伸びたら、続き考えます！

伸びないと思ったら、キャラデータでも書いて終わります！

ソセゴンボール 裏話

ソセゴンボールとは「ドラゴンボール」のパロディ(?)である。ソセゴンとは生時が使用している痛み止めである。タイトルはこの他にもゴンドラボールやドラえもんボールなどがあった。

生時のブログによれば、ドラゴンボールのストーリーを他のアニメのキャラで展開していく。そんなストーリーを前から考えていたのだが、結局難しいため、ボツとなった。

ソセゴンボールの登場キャラ

生時・・・名古屋出身のネット作家である。

昔は「最強の武道家」になるのが夢だったが、クローン病という難病患者のため断念し、2006年から「小説家になろう」で活動を開始する。

この物語の主人公でもあり、作者でもある。

美奈子・・・この物語のヒロインで。

ブルマのポジションであるが、発明は出来ない。だが、四次元袋を拾って、道具を出すのが、これは元々プーえもんのものである。

キューティーヴィーナスという愛の戦士でもある。

モデルは「セーラームーン」の愛野美奈子である。

ウーノスケ・・・ウローンのポジションであるが、変身は出来ない。だが、着ぐるみを着て変装?が出来る。

人間と妖怪の間に生まれたため捨てられた半妖怪である。

通称は「ウーちゃん」で年齢は、5歳児に見えるが、1000歳を超えている。

また、かなりの女好きである。普段は「オラ」と、言っているが、ナンパをする時など「僕」となり、丁寧語になる。

モデルは「クレヨンしんちゃん」のしんのすけである。

ノムチャ・・・ヤムチャのポジションであるが、あまり強くない。サングラスをかけているときは、カッコいいが外すと目が「3」のような目をしている。

モデルは「ドラえもん」の野比のび太である。

プーえもん・・・プーアルのポジションで、天上界からノムチャを立派な盗賊にするためにやってきた狸のような猫妖怪である。

通称は「プー」で年齢は1293歳で、ウーノスケとは幼馴染である。

四次元袋は元々彼のものであるが、美奈子に取られたままである。

モデルは「ドラえもん」のドラえもんである。

ハゲ仙人・・・別名、悟天老師！

亀仙人のポジションだが、スケベでなく、欲がないまさに仙人である。

モデルは亀仙人であるため、武道の達人である。

ミスター・サタロウ・・・牛魔王のポジションで、フランスパン山に住む格闘技の世界チャンピオンである。

師匠はハゲ仙人で娘に生ビードルがいる。

モデルはミスター・サタン（声優つながり）である。

生ビードル・・・チチのポジションであるが、婚約者はウーノスケ

である。

モデルはビーデルであるが、彼女よりもセクシーギャルである。名前はビーデルからビールを思いつき、生ビーデルとなった。

奇体組・・・ピラフ一味のポジションで、ピラフが礼クン大魔王、シユウ豪で、マイが命である。

モデルは「ハイスクール！奇面組」からで、礼が一堂零で、豪が冷越豪で、命が雲童命（腕組のリーダー雲童塊の妹）である。（声優繋がり）

ソセゴン・・・神龍のポジションであるが、龍ではなく、セクシーギャルで、金を腹はないと願いを叶えてくれない。

最初はドラえもんみたいなキャラを考えていたが、プーえもんで出してしまうため、セクシーギャルとなった。

ソセゴンボール 裏話（後書き）

どうもご愛読ありがとうございます^^

一応第一部は終わりです。

アクセス数が伸び、気が向いたら、ソセゴンボールZとして、第2部を書くかもしれません。

平成21年6月 生時

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1026h/>

ソセゴンボール

2010年10月9日03時42分発行